

会 議 録

会 議 名	東浦町パートナーシップ推進事業 平成 28 年度事業報告会 及び平成 29 年度募集説明会	
開 催 日 時	平成 29 年 5 月 14 日（日） 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで	
開 催 場 所	東浦町総合ボランティアセンター なないろ	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、牧野清光委員、久米弘委員、戸 張里美委員、早川信之委員
	事務局	原田課長、筒香係長、柿野主事
	採択団体	東浦アートプロジェクト、特定非営利活動法人新 青樹
議 題	1 平成 28 年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告 2 平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業 募集説明	
非公開の理由		
傍聴者の数	7 名	
審 議 内 容 (概 要)	委員の出席及び会議の成立を確認	
	<p>議題</p> <p>1 平成 28 年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告 平成 28 年度東浦町パートナーシップ推進事業採択事業（テーマ 特定型 2 件）について、プレゼンテーション形式で報告を行い、各 団体の報告の後、それぞれ質疑応答及び講評を行う。</p> <p>なお、審査委員長の意向により、審査委員からの質疑応答及び講 評の後、参加者からの質疑の時間をとった。</p> <p>実施事業の概要、質疑応答及び講評については下記のとおり。</p> <p>(1) 「町制 70 周年を記念とする市民映画制作のワークショップ」</p>	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの魅力、活躍している住民の様を市民 映画として形にするとともに、住民に広く 発信していくこと ・ 市民映画の効果を考え、まちの魅力（場所 や人、もの）を探り、話し合いを進めてい くことで多世代・異文化交流の場を創出す ること
事業内容	計 10 回のワークショップを実施した。 事業目的に沿ったワークショップ 9 回 （「参加者が考える東浦の魅力について」「熱	

		<p>気球のロケーション撮影」など) 映像に関する講座 1回 7～15名参加</p>
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ市民参画の映画をつくるのか確認した。 ・ 外国からの移住者の受け入れ体制、緒川小学校のオープンスクールなどの特徴から、映画のキーワードを「多様性」「他者受容」とする。 ・ 9名のコアメンバーによる「ひがしうら映画プロジェクト」を発足した。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「小道具で参加したい」「映画に出演したい」等の映画制作に関する問い合わせが多数あったが、今回の実施事業は「ワークショップ」ということで、協力を得られなかった。 ・ 講師の都合により平日夜に開催したため、高齢者や子育て世代の参加が難しかった。 	

(委員)

報告の最後に町が映像を制作することに対する「懸念」について触れていたが、どのような懸念があるのか。

(団体)

住民がつくるものと町がつくるもので目的が完全に異なるが、「映画」という同じツールを使うため、第三者から見たときにその違いを理解してもらえるか、また行政にこの点をどう理解してもらえるかという点が懸念としてある。

(委員長)

この事業は、パートナーシップ推進事業という枠の中で行っている事業である。その点から どういったところで「パートナーシップ」を意識してきたか、あるいは、どう意識できるのかお聞きしたい。

(団体)

新たな人材の育成という観点から若い世代をターゲットとした。結果として、今後、協働（事業）やボランティア（活動）等、色々なことに携わっていく 20 代の人材が獲得できた。（パートナーとなる人材の育成ができた。）

(委員)

	<p>「ワークショップ」という手法を広めたいという狙いもあって、町が挙げたテーマであったと思う。ワークショップのやり方、進め方について、良かった点や悪かった点について教えてほしい。</p> <p>今後、何かを決める時に、ワークショップという手法を採用するための参考として、留意点等まとまった報告があるとよかった。</p> <p>(団体)</p> <p>ニュースレターやフェイスブックでワークショップの進捗状況を発信している。ニュースレターについては、ボランティアセンターに設置してもらおう等拡散していきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>報告を聞いたところでは、今後の映画制作では、良いところばかりを取り上げるようだ。良いところだけでなく、悪いところも含めて、事実を取り上げていただきたい。悪い点をどうしていくのか示唆する内容であってほしい。</p> <p>(団体)</p> <p>今回のワークショップでは、外国人住民さんやふるさとガイドさんから話を聞いて、考える機会や話合う機会を持つことができた。</p> <p>問題を提起するような動画をつくることについては、次年度の活動内容として検討していきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>人集めやお金の遣り繰り等について、苦労があったと思う。</p> <p>(団体)</p> <p>広報、チラシ、新聞などの媒体を通して人集めを行ったが、それらを見て参加したいと言った人はいなかった。個人の声掛けにより集まったメンバーでワークショップを行った。</p> <p>報告したように「映画に出演したい」「小道具で参加したい」「映画音楽をつくりたい」などの問合せはあったが、「ワークショップを行う」と説明すると(参加を)やめると言った人が多くいた。ワークショップへの関心の薄さが分かった。</p> <p>お金については、今後の財源をどうするかという問題もあるが、今回は、助成を受けたお金で事業を最後までしっかり行うことに注力した。</p> <p>(委員)</p> <p>今回の助成額で過不足なく事業を行えたということか。</p> <p>(団体)</p> <p>おっしゃるとおりです。</p> <p>(委員)</p> <p>人集めは、コミュニティも苦労している。例えば、65歳成人式</p>
--	---

でコミュニティへの参加を呼び掛けたが、人が集まらなかった。

さらに、町民が納得するようなものをつくるには、色々なところに声をかける必要があったと思うが、こういった短期の事業で色々な（背景を持った）人を集めることは、大変難しかったと思う。

（委員）

東浦アートプロジェクトさんが行ったように、ロコミが一番効果的であると思う。

しかし、広報や新聞と言ったメディア媒体も必要であると思う。というのも、参加までは結びつかなくとも、行った活動に対する理解者は必ずできる。応援団がいると思って活動してほしい。

確かに行政からの助成金となると、公平性を気かけなくてはならないこともある。しかし、ボランティア団体として、あまり公平性に捕らわれずに、やりたいという「思い」を一番に持って活動することが大事だと思う。

（２）「プレーリーダー養成講座」

事業目的	公園がただの「公共施設」ではなく、みんなが憩える場、活動拠点となるべく養成講座を開催する。地域で「子育て」を担い、多世代の公園利用の在り方を啓発していく人材育成を行う。
事業内容	プレーリーダーとして活躍するための知識、技術、心構えを学ぶ講座を 8 回に分けて実施した。 （「遊びとリスクマネジメント」「道具の使い方」「実習」など） 5名受講（1名は1回目のみ受講）
事業成果	<ul style="list-style-type: none">平成 29 年 4 月から 4 名がおだいプレーパークでプレーリーダーとして活動している。10 名のプレーリーダー（昨年度受講者と今回受講者の合計数 11 名のうちプレーリーダーとして活動できる人数）の養成に成功し、この 10 名が公園利用の在り方を示していくモデルとなった。養成講座でリーダーを養成し、プレーパークを運営するという基本的な手法を広めることができた。

	<p>その他</p>	<p>町から助成を受けたことにより、受講生や来園者の安心と信頼を得たことで活動がしやすかった。</p>
<p>(委員)</p> <p>応募者が5名、活動者が4名と言っていたが、1名の方は、研修は全て終わったのか。</p> <p>(団体)</p> <p>終わっていません。</p> <p>(委員)</p> <p>活動ができない状況であるということか。</p> <p>(団体)</p> <p>勘違いをして、申し込みをされたみたいで、第1回目だけ参加された。</p> <p>(委員)</p> <p>申し込んだけれども、「違うな」と思って受講を止めたということか。</p> <p>(団体)</p> <p>そういうことだと思います。</p> <p>(委員)</p> <p>新たな団体はできていないのか。</p> <p>(団体)</p> <p>まだ団体ができるところまではいっていない。</p> <p>3月までは、誰も活動できない日、人が足りない日に新青樹から人を出していた。しかし、この4月からは、10名で何とか運営している状態だ。来年まで新青樹がお手伝いをし、再来年くらいまでには、独立してもらい、新青樹の東浦支部のようなものができるとういと考えている。</p> <p>プレーリーダーに法人を立ち上げて、10名で運営していてもよいと話したが、そこまではできないと言われた。</p> <p>3年後、おだいプレーパークのメンバーだけでおだいプレーパークを運営していける体制になるとよいと思っている。こちらもゆっくりに構えていたいと思う。</p> <p>報告会の最後に吉村委員長より下記のとおりパートナーシップ推進事業全体について、総括としての講評をいただく。</p> <p>(委員長)</p> <p>色々な場面で色々な人たちが関わることのできる「選択肢」がか</p>		

なり広がっているということは、間違いのない事実だ。色々な活動をしてみたいという方にとっては、地域の中にも地域外にも選べる活動がたくさんある。そういった方たちに対して、優先的（に参加すべきものである）と思ってもらえるようアプローチすることは重要なことだと思う。

私自身は、地域にいる人たちは、それぞれ色々な関心ごと、興味を持っていると認識している。

よくある議論として、地域の人は無関心なので（活動に）参加しないというものがある。しかし、色々な関心興味をもっているけれども、具体的なアクションに結びつけるときのきっかけが合わない、あるいは知らない、あるいは中々リアルに共感しづらいというところが現実であると思う。この点に問題があるのではないか。

また4名や15名（の参加者）が少ないとは思わない。事実として、その数字があり、その数字が本当に少ないのかということは、単純に評価しづらいのではないか。

一方で、もしかしたら少し工夫することで関わるきっかけ（を提供する事）になることもあるかもしれない。

先程「勘違い」で1回目のみプレーリーダー養成講座に参加した方がいたと言われたが、むしろ「(自分に) 合わなければいつでも辞めてよい」というくらいから始めてもよいのではないか。その活動が好きか嫌いか、10回参加して分かる人もいれば、そうでない人もいる。何となく関わってみたいなと思っている人に対し、全ての講座を受講することを前提とするのはどうなのだろうか。

アートと言う切り口は、入口としてはとても大事であると思う。しかし、ワークショップや講座の組み合わせ方については、もう少し工夫することで、他にも多数の可能性が生まれたのかもしれない。

「自分たちの企画に対して、どう人を巻き込むか」という発想と「こういう人たちと一緒に活動したいから、その人たちを巻き込むにはどうしたらよいのか」という発想では、少しアプローチが異なってくる。アートプロジェクトが実施した事業について、冒頭で、「講師の都合で平日の夜の開催となった」と言ったが、それが（子育て世代の参加者や高齢者を多く巻き込めなかったという）決定打になったのかもしれない。

どういうことを目的に、何をなすのかを考えることは大事だ。市民映画をつくるのが目的なのか。市民映画をつくることで何かを

得ることが目的なのか。例えば高浜市の市民映画制作は、映画制作の中で子どもたちが活躍することが目的だった。ということは、子どもたちが参加できる環境をいかに整えるかということが主眼となる。

悪い部分も含めた映画を作成してほしいと他の委員から意見として出ていたが、こちらについても、課題についてみんなで葛藤し解決していくところを見せることが目的なのか、プロモーション映画のようによいところだけを見せることが目的なのかで内容が変わってくると思う。

また、協働で事業をすすめていくには、時間がかかる。行政としては、短い期間でたくさんの参加者を集めなければならないのかもしれない。しかし、人の興味関心が広がっていく中で、たくさんの人と関わりながら活動を行うことは、そう容易いことではない。あまりせっかちにならず見守りながら育てていく姿勢を持つことが行政には必要だ。

今まで、行政のアプローチとは、組織をつくって事業をどう展開させるかという考え方が発想の中心となっていたが、（そうではなく）動いていくことで、結果的に組織が生まれたというアプローチの方が大事だと思う。

「プロジェクト」は必ず終わるものである。次につなげるには、ムーブメントにしていかないといけない。

「協働事業」とはどういうことなのか見えづらい。行政がお金を出して、あとは、団体にお任せとならないよう行政ができることや関われることはもっとある。行政として協働事業とはどうあるべきなのか、見えてくるとよいと思う。

パートナーシップ推進事業として活動した団体が2団体というのは、少し物足りないと思う。この事業がもっと広がっていくとよい。そのために事業に応募できる団体をどう育てていくのか等、考える余地はまだまだありそう。また、気楽に応募できる仕組みというものを整えていく必要があるのではないかと思う。

	<p>2 平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業募集説明 平成 29 年度の事業募集について、要領に基づきパワーポイント資料に沿って説明を行う。</p>
--	--